

## 吉備地域の古代寺院と瓦（岡山市域分）

<発掘調査で判った古代寺院>

### 賞田廃寺

所在地 上道郡（岡山市中区賞田）

創建年代 飛鳥時代

伽藍配置 薬師寺式伽藍配置（二塔一金堂）

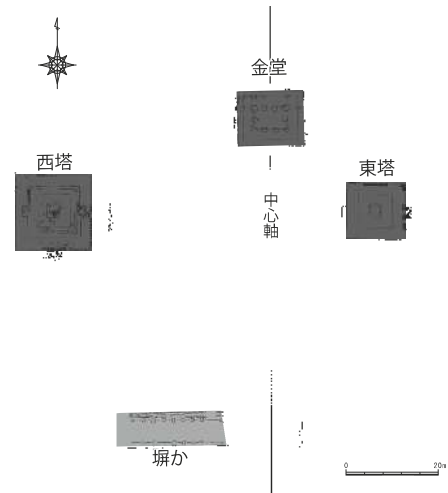
調査歴 (有)・無) 1970, 2000～2003年 整備調査

出土遺物 軒丸瓦、軒平瓦、鴟尾、丸瓦、平瓦、奈良

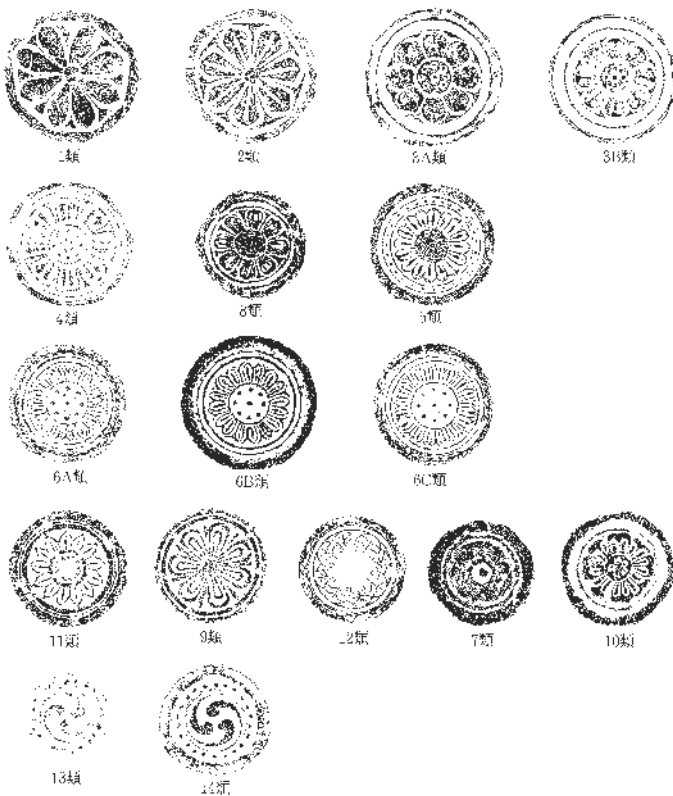
三彩、緑釉陶器、須恵器、瓦塔、瓦経、風招、釘など

賞田廃寺は、備前地域のなかでも最古の寺院である。律令期の上道郡上道郷に属し、備前の中枢部に位置する寺院といえる。賞田廃寺の特筆すべき点は、2点ある。1点目は、寺院の西横側に7世紀の横穴式石室をもつ古墳がある点で、2点目は、地方では珍しい、凝灰岩壇正基壇を採用している点である。これらの情報は、賞田廃寺の造営氏族や格式を考える上で重要なものである。

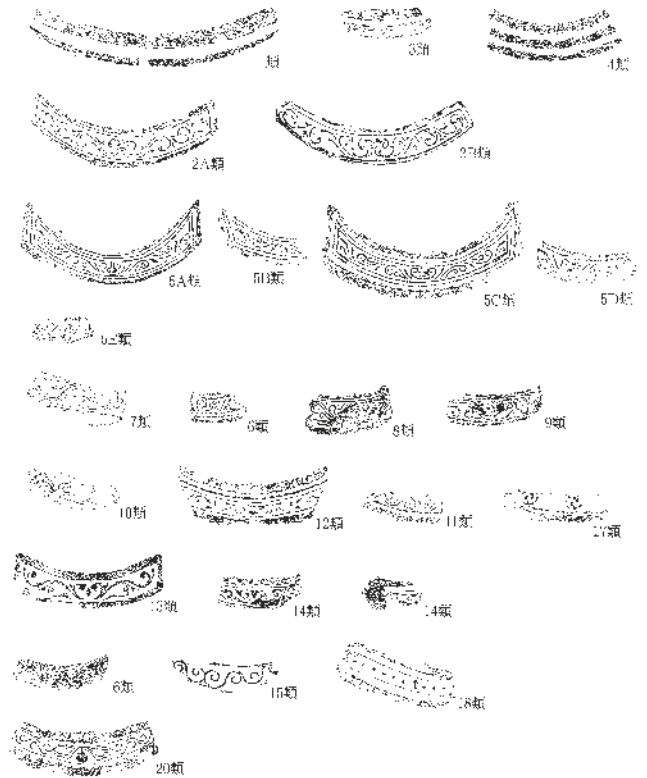
軒瓦は、創建から廃絶まで多種多様なものが用いられており、特に、軒丸瓦1類、2類は、創建期の7世紀中葉のものと思われる。



伽藍配置（岡山市教委 2005 を改変）



賞田廃寺出土軒丸瓦一覽（岡山市教委 2005）



賞田廃寺出土軒平瓦一覽（岡山市教委 2005）

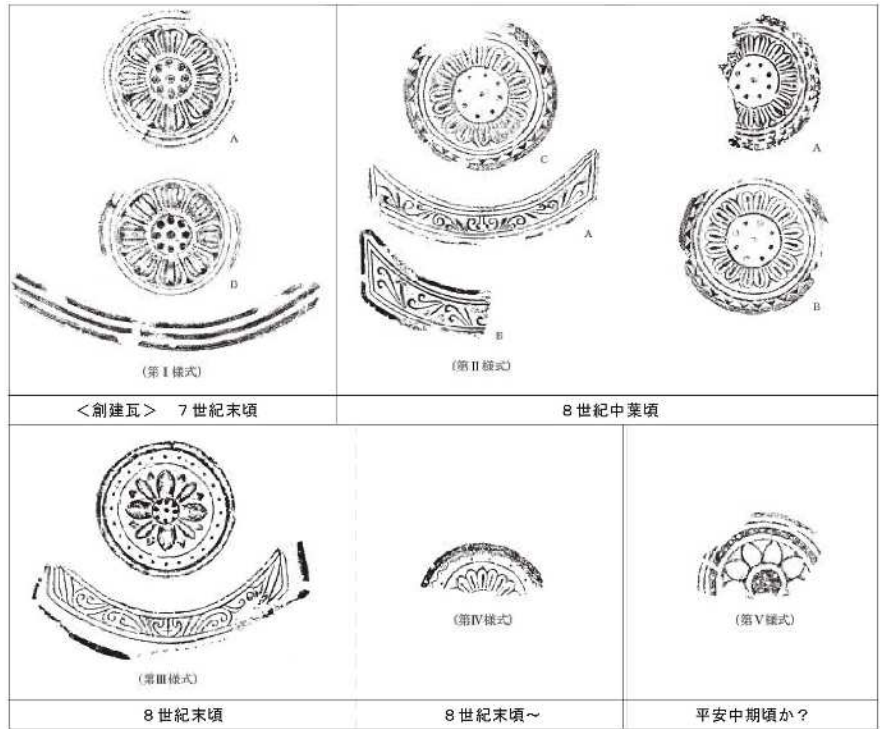
# 幡多廃寺

**所在地** 上道郡（岡山市中区幡多）  
**創建年代** 白鳳時代  
**伽藍配置** 一塔一金堂

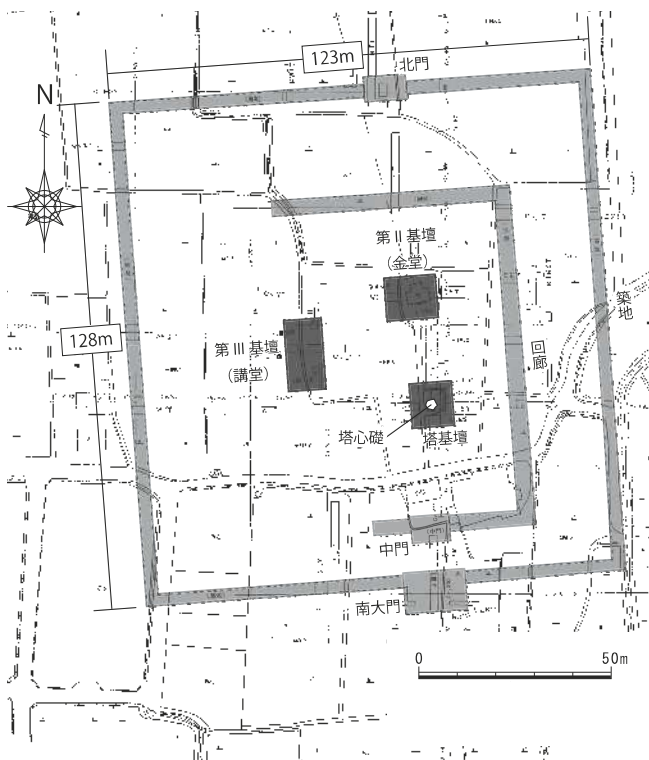
**調査歴** (有)・無) 1972～1973、1988～1989年  
**出土遺物** 軒丸瓦、軒平瓦、鷗尾、丸瓦、平瓦、奈良三彩、緑釉陶器、須恵器、円面碓、白磁、玉類など

幡多廃寺は、出土瓦から白鳳時代後半の創建と想定される。幡多廃寺について、特筆すべき点は、3点ある。1点目は、県下最大の塔心礎をもつ点である。2点目は、地方寺院では珍しい凝灰岩壇正基壇を採用している点である。3点目は、門の配置などは、正方位をとっているものの、講堂や金堂、塔の向きが、東方面をとっている点である。

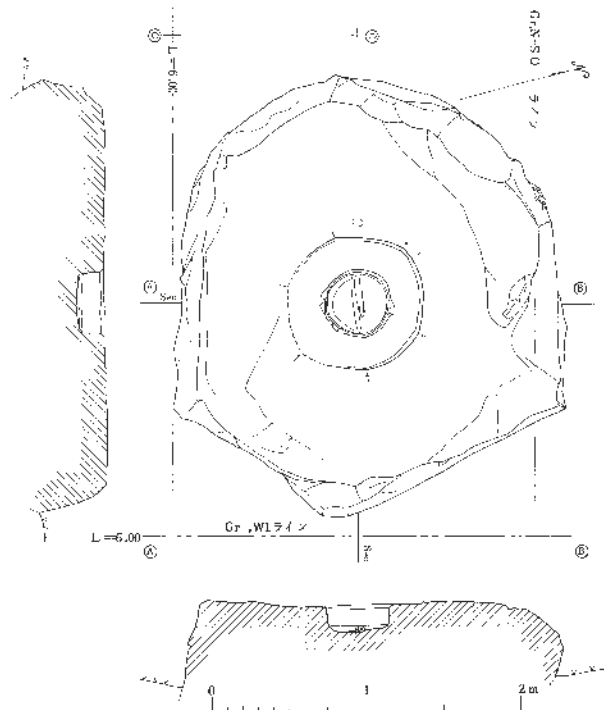
また、幡多廃寺は、幡多郷に帰属し、木簡にみる氏名から、「秦氏」との関連性も考えられる。



幡多廃寺出土軒瓦の変遷（岡山市教委 2015 を改変）



寺域と想定伽藍配置図（岡山市教委 1975 を改変）



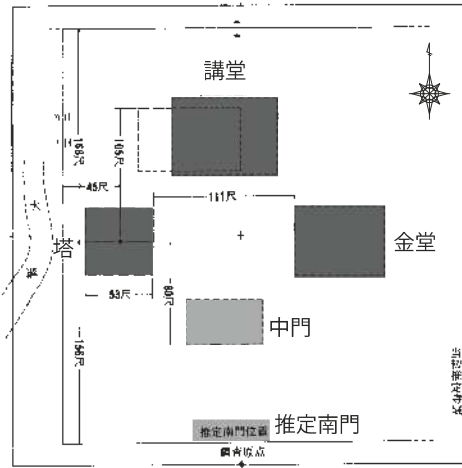
塔心礎図（岡山市教委 1975）

## 吉岡廃寺

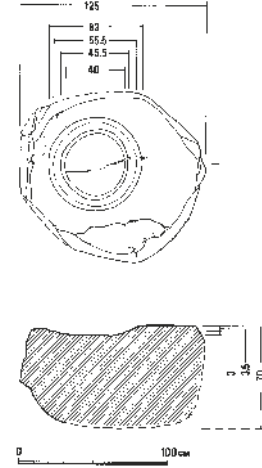
**所在地** 磐梨郡（岡山市東区瀬戸町塩納）  
**創建年代** 白鳳時代  
**伽藍配置** 法隆寺式伽藍配置（一塔一金堂）

**調査歴** (有)・無 1981～1982年  
**出土遺物** 軒丸瓦、軒平瓦、鷗尾、丸瓦、平瓦、鉄鉢  
 形須恵器、円面硯、土師質獣脚、稜碗形須恵器など

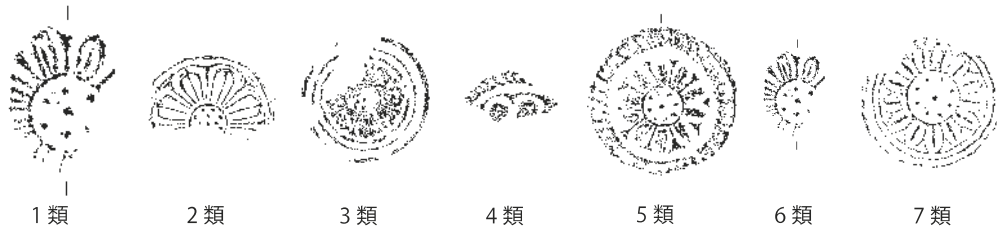
吉岡廃寺は、磐梨郡磯名郷に位置する白鳳時代後期に創建された寺院である。寺域は、方一町の法隆寺式伽藍配置をとる。塔心礎は、現在移築され、万富公民館に安置されている。吉岡廃寺の特筆すべき点は、周辺とは異なった瓦生産技術を有するところにある。



伽藍配置図（岡山県教委 1982 を改変）



塔心礎（岡山県教委 1982）



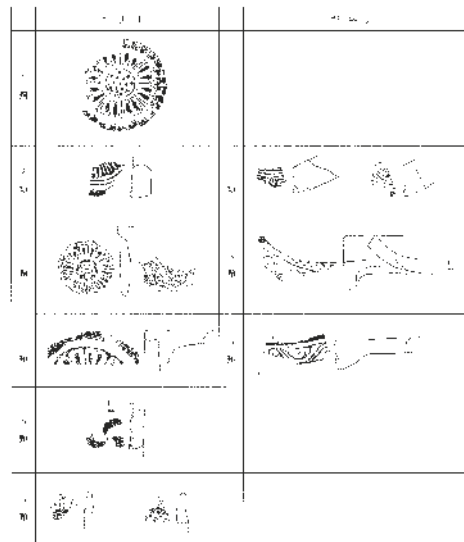
出土軒丸瓦一覧（岡山県教委 1982 を改変）

## ハガ遺跡

**所在地** 上道郡（岡山市中区国府市場）  
**創建年代** 奈良時代  
**伽藍配置** 不明

**調査歴** (有)・無 1999～2001年 記録保存  
**出土遺物** 軒丸瓦、軒平瓦、土馬、羊形硯、獣形硯、瓦塔、泥塔、陶硯、須恵器、土師器など

ハガ遺跡は、中区国府市場に所在する備前国府関連遺跡の一つである。発掘調査の結果、古代から近世までの幅広い期間の遺物や遺構が見つかった。古代の面では、溝や築地塀による正方位の区画整備の痕跡が明らかとなった。また、古代の遺構面からは、羊形硯や獣形硯、三彩陶器など出土例に乏しい大変貴重な遺物が見つかった。さらに、瓦塔や泥塔、灯明皿、軒瓦類もまとめて出土しており、伽藍配置など遺構の面は不明な要素が多いものの、寺院的性格の窺える遺跡といえる。



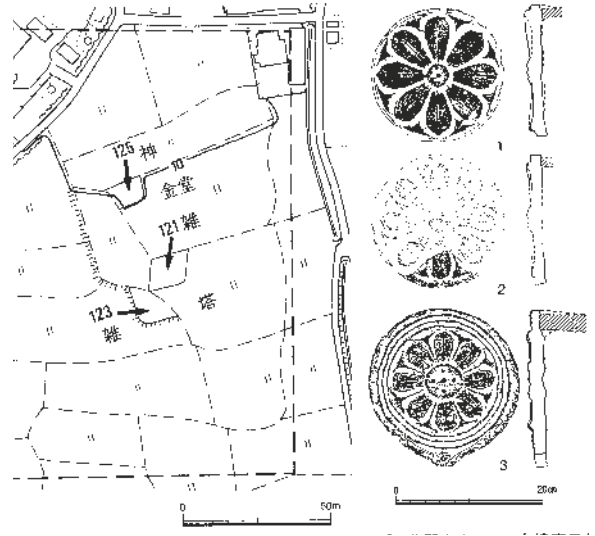
ハガ遺跡出土軒瓦の分類（岡山市教委 2004）

### <発掘調査以外で判った古代寺院>

#### 大崎廃寺

**所在地** 賀夜郡（岡山市北区大崎）  
**創建年代** 飛鳥時代  
**遺物** 軒丸瓦

大崎廃寺は、発掘調査が行われておらず、規模や伽藍配置など不明な点が多いが、塔・金堂・講堂が南北に一直線上に並ぶ四天王寺式伽藍配置と推測されている。採集された瓦には、山背地域の北野廃寺で出土瓦と類似する、7世紀前半の有稜素弁八弁蓮華文軒丸瓦や備後地域におおくみられる、「水切り瓦」または「寺町廃寺式瓦」と呼ばれる、瓦の下端が三角形に尖ったものがみられる。



大崎廃寺の推定伽藍と採集瓦（湊・亀田 2006）

#### 居都廃寺

**所在地** 上道郡（岡山市中区穴廿）  
**創建年代** 白鳳時代  
**遺物** 軒丸瓦、軒平瓦

居都廃寺は、発掘調査が行われておらず、規模や伽藍配置など不明な点が多い。採集された瓦から、白鳳時代の創建と考えられ、周辺の賞田廃寺や幡多廃寺の瓦と類似し、この2寺との関係性があったと想定できる。

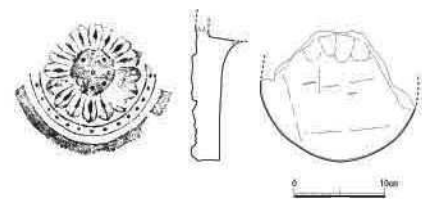


居都廃寺軒瓦（岡山市教委 2005）

#### 成光廃寺

**所在地** 上道郡（岡山市中区国府市場）  
**創建年代** 白鳳時代  
**遺物** 軒丸瓦

成光廃寺は、古代推定山陽道沿いに位置する寺院で、国府正庁の可能性を指摘する声もある。瓦は、賞田廃寺の瓦と共通性をもつ。

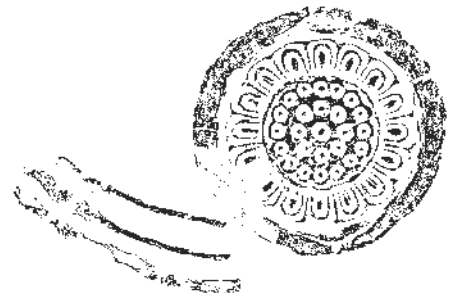


成光廃寺軒瓦（草原 2022）

#### 神力寺廃寺

**所在地** 津高郡（岡山市北区一宮）  
**創建年代** 白鳳時代  
**遺物** 軒丸瓦、軒平瓦

神力寺廃寺は、吉備津彦神社の南側に所在する。発掘調査はされていないが、採集された2種の瓦から白鳳時代の創建で、奈良時代に修理したことが考えられる。瓦のほかに、多角形瓦塔なども採集されており、重要な寺院であったことを読み取ることが出来る。



神力寺廃寺軒瓦（出宮ほか 1992）

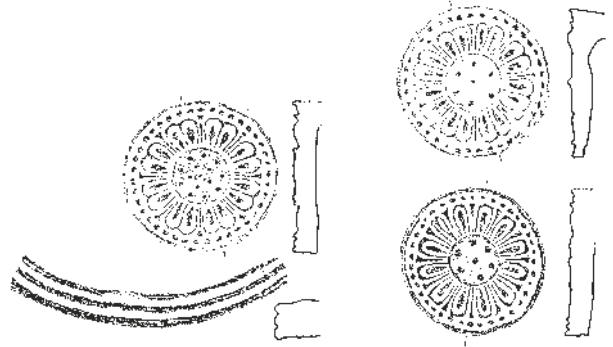
### 津高北廃寺

**所在地** 津高郡（岡山市北区富原）

**創建年代** 白鳳時代～奈良時代

**遺物** 軒丸瓦、軒平瓦

津高北廃寺は、北区富原に所在し、別称、荒神廃寺、富原北廃寺と呼ばれる。出土瓦から白鳳時代後半から奈良時代前半頃の創建と考えられる。出土瓦のなかには、賞田廃寺にみられる瓦も含まれており、賞田廃寺と何らかの関りがあったと想定できる。



津高北廃寺軒丸瓦（出宮ほか 1992）

### 津高南廃寺

**所在地** 津高郡（岡山市北区富原）

**創建年代** 奈良時代

**遺物** 軒丸瓦

津高南廃寺は、北区富原に所在し、別称、富原南廃寺、オノ木廃寺などと呼ばれる寺院である。近年は、寺院という認識よりも、古代山陽道沿いに設けられた、「津高駅家」や「津高郡衙」と推測されている。出土瓦は、所謂、平城宮式の瓦である。瓦の特徴から当遺跡は、奈良時代前半頃に寺院ないし、駅家、郡衙が造営されたと考えられる。



津高南廃寺軒丸瓦（出宮ほか 1992）

### 網浜廃寺

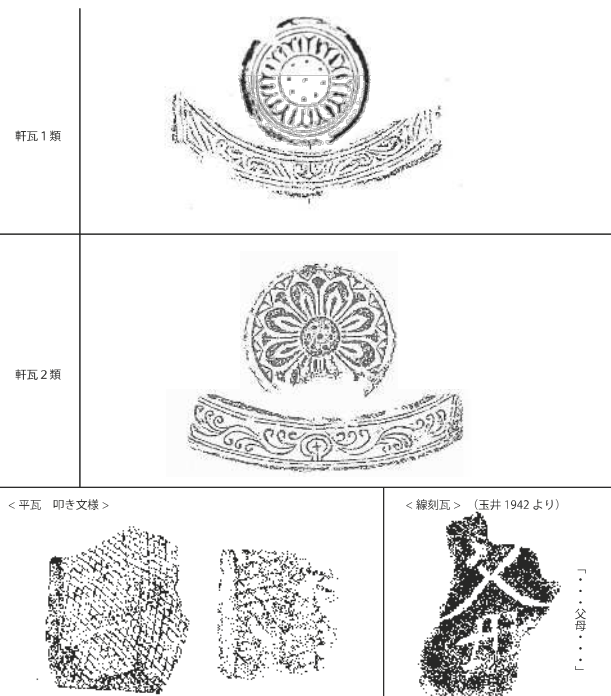
**所在地** 上道郡（岡山市中区網浜）

**創建年代** 奈良時代

**遺物** 軒丸瓦、軒平瓦、文字瓦など

網浜廃寺は発掘調査が行われておらず、その詳細は明らかになっていないが、遺構は、宅地崖断面で確認され、基壇と溝などが確認されているが、基壇の詳細は不明だが、礎石が確認されており、堂塔の存在が想定できる。

瓦が大量に出土しており、瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・文字瓦がある。網浜廃寺は、特に軒瓦から年代観が推定されている。軒瓦は、軒丸瓦・軒平瓦とも2種類確認でき、文様形態と胎土・色調が異なる。奈良時代末頃に創建され、平安時代初頭に寺院の補修または改変があったと想定できる。



網浜廃寺出土瓦